

第 2 部

ふくい2030年の姿

第2部 ふくい2030年の姿

2030年に向けたこれからの四半世紀は、飢饉や戦乱などによる一時的な要因によるものを除き、これまでの日本の歴史の中で初めて長期的に人口が減少していく時代になります。

少子高齢化の進行による人口の減少は、労働力人口の減少や社会給付の増大などにつながり、高度経済成長期に右肩上がりの経済成長を前提に確立された、現在の産業構造や社会保障制度など様々な経済社会システムに大きな影響を及ぼし、経済成長率の低下、財政赤字の拡大などが懸念されるとも言われています。

しかし、私達一人ひとりが創造力を発揮し、少子化対策など急激な人口減少を抑える努力や労働参画率と労働生産性の向上、少子高齢化に合せた職場や社会の意識、制度の改善などに取り組み、福井の持つ潜在力を最大限に活かしていくことにより、

「みんなの価値観」から「一人ひとりの価値観」へ
 「自己的な満足」から「ともに分かち合う満足」へ
 「内」から「外」へ
 「消費」から「活用」へ

など、これからの時代にあった考え方に転換し、新しい生活感を生み出すことにより豊かさを獲得することは可能だと考えます。

このため、第2部では、第1部で行った現在と25年前の過去との比較・分析や様々な時代の変化を示すキーワードを手がかりとして、夢や希望を折り込みながら、目指すべき社会像

「生活優先、自立社会」

と4つの柱

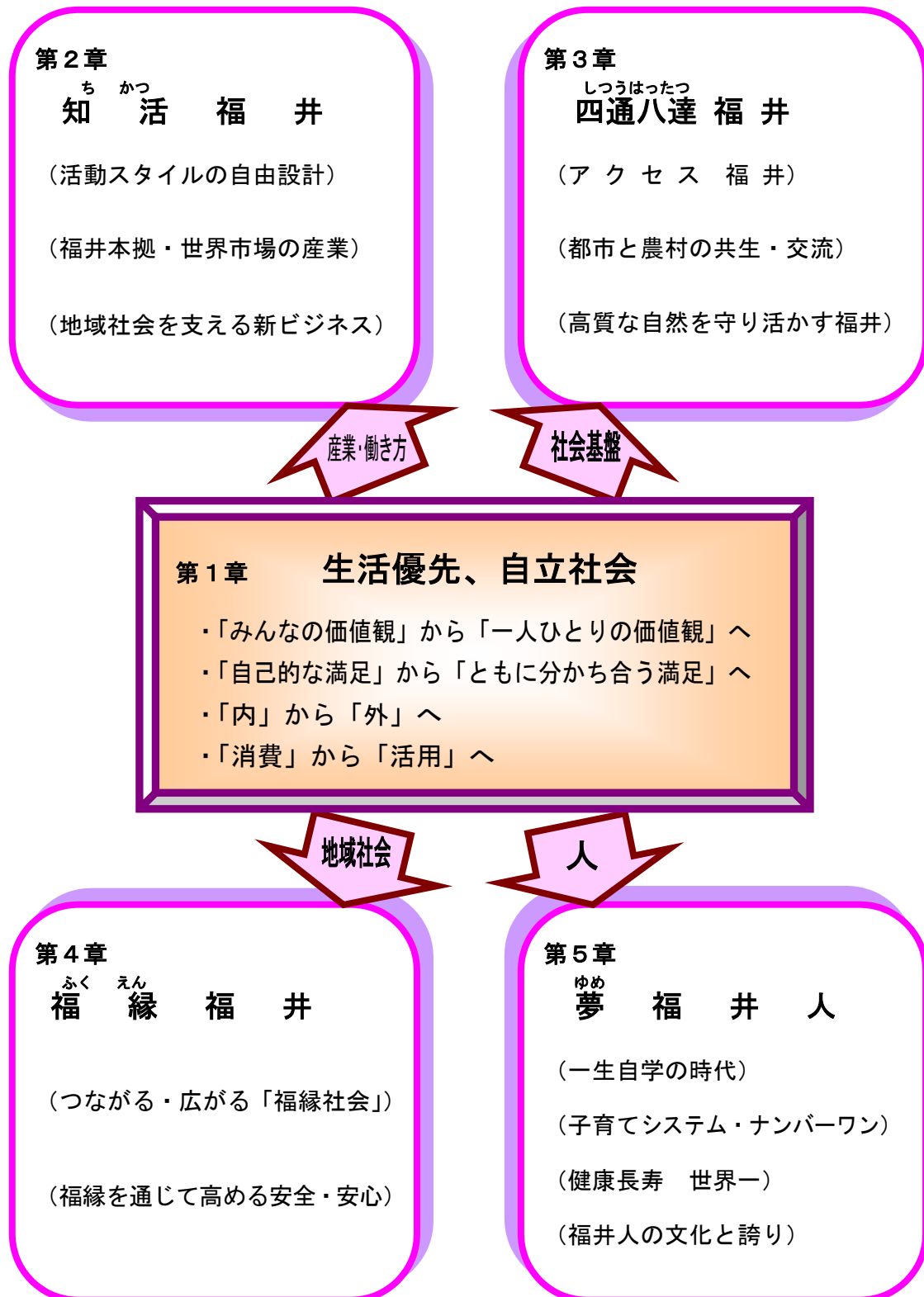
「 <small>ちかつ</small> 知活福井」	……産業・働き方
「 <small>しつうはったつ</small> 四通八達福井」	……社会基盤
「 <small>ふくえん</small> 福縁福井」	……地域社会
「 <small>ゆめ</small> 夢福井人」	……人

について、25年後の福井の未来像を描きました。

しかしながら、社会経済情勢がさらに早いスピードで変化し、目先のことですら見えないことが多い中において、25年後を的確に見通すことは容易ではありません。

このため、第2部は、2030年のすべてを網羅的に分析し未来像を描くのではなく、柱を絞り込んで描いています。したがって、今後、足りない部分は随時見直していくことが必要であると考えています。

第2部の体系



第1章 生活優先、自立社会

福井は、かつて経済企画庁（現内閣府）が発表していた新国民生活指標（いわゆる豊かさ指標、現在は廃止）で5年連続全国第1位になりました。県民一人当たりの施設数やパソコンの世帯普及率など物をベースにした数字や平均的な数字を他県と比較する従来の基準では、すでに最も豊かな県であると言えます。

しかし、人口が減少し、価値観の多様化が進む新しい時代においては、こうした従来の基準とは異なる、個人が自立した自分の生活をつくり、官民の役割を見直しより広い分野で民が官に頼ることなく自立し、地方も国から自立した、新しい価値感と生活感、豊かさを伴った「生活優先、自立社会」という基準を生み出していかなければならないと考えます。

そのためには、価値感や生活感など質的なものの新しい基準を見出し、福井人の気質や考え方、生活スタイルについても進化させることが必要となります。

福井は、これまで築いてきたストックを最大限に活用し、良きものを残し悪しき流れを変えることにより、全国に先駆けてこれを実現することができると確信しています。

（「生活優先、自立社会」）

○「みんなの価値観」から「一人ひとりの価値観」へ

豊かさが広がり、核家族や終身雇用制度など「標準的・画一的なもの」がなくなる中、価値観・ライフスタイルや仕事・雇用の「多様化」が進んでいます。

こうした中、社会的な人間関係において、人々の価値観は地域、職場など「集団」の中での均一、横並びといった「みんなの価値観」から、自分らしさや「個」の自由というおのずと「一人ひとりの価値観」に心のよりどころをおくという基準に転換していくと考えます。

しかし、自分らしさや個の自由を確立するためには、子どもから大人へ成長する過程で、「親」や「集団」から「自立」し、さらに自らルールを持ち「自律」することが必要です。それができない場合は「孤（孤立・孤独）」に陥ってしまいかねません。

社長の輩出率が全国一位と個人の能力が高い福井人は、自分の意思で他人と交わり、集団に「帰属」はするが「従属」はしないと、高いレベルでの自分らしさや個の自由の確立が可能であると考えます。

一方、これが行き過ぎてしまうと、今まで以上に価値観の違いによる対立を発生させる危険性を併せ持っています。このため、他人の人間性や考え方を尊重し合うことのできる自由と規律を併せ持った新しい価値観の社会になることも重要です。

○「自己的な満足」から「ともに分かち合う満足」へ

これまで日常的な暮らし面では、所得の上昇やマイホームの取得、車、テレビ、エアコンなどの新製品の購入あるいは施設の整備が進んでいるなど生活する上での「自己的な満足」を豊かさであると考えてきました。

しかし、住宅も世帯数の減少により余る時代が訪れます。また、電化製品なども一世帯が複数所有し、公共施設の整備も進むなど物がある意味で足りている中、「自己的な満足」ではこれまでのように豊かさを感じられなくなると考えます。

一方、生活は便利になり、良く働き、消費もしますが生活に余裕が感じられません。また、私益を追求し、公益への関心が薄いなど、より高い水準の生活感を得るにはいたっていません。

今後は、豊かさの基準が、「自己的な満足」を超えて、伝統、文化の継承・発展や生活のよりどころとしてのまちづくり、他人への奉仕などから得られる誇りやゆとり、思いやりなど「ともに分かち合う満足」へと転換していくと考えます。

福井には、「豊かな自然、歴史、文化」や「書道や俳句など趣味を楽しむ機会」、「地域社会のつながり」など恵まれた生活環境が残されており、「ともに分かち合う満足」を、他県に先駆けて手にすることが可能であると考えます。

○「内」から「外」へ

これまで福井人は、積極的に人の前に出るよりも1歩下がる、県外、海外に打って出るよりも、県内の内輪の競争で満足するといった「内」向きの気質が強くありました。

豊かさの基準が、物を所有することや集団の中で横並びでいることであれば、内向きであっても十分豊かさを享受することができました。

しかし、2030年に向けて、グローバル社会が到来し、北陸新幹線や高規格道路などの交通基盤を整備すると、「外」から人や資本を積極的に呼び寄せることができるようになり、もう内向きでいることは不可能な時代になります。

また、「新しい生活感と価値観、豊かさ」を失わないためにも、地域社会をオープンにし、外から積極的に人がやってくる環境づくりが必要です。さらに、自ら積極的に外に向かい人と関わる中で常に外にいるような考えを持ち、自分らしさを失うことなく実感することが必要です。福井に住むということの豊かさを実感するためには、外へ出て、他県や他国の実情を自分の目で見て、肌で感じ、自ら発信しなければなりません。

2030年に向けては、これまでの福井人氣質の殻を破り、積極的に「外へ出る気風」を醸成していくことが必要となります。

○「消費」から「活用」へ

人口の減少や環境上の制約、自然保護の観点などから、我々の生活と経済の間ではこれまでのように資源や食材をふんだんに使って新しいものや料理を大量に「つくり」、古いものや食べ残しを大量に捨てるような「消費」社会からは脱却しなければなりません。

これからは、他者に依存し、作るだけで使わない、活かさない社会から、自らの判断で、既存のものを「いかし」、有効に無駄なく「活用」する社会に移行していくことが必要です。個々人が、自分の生活を十分に考え、いらぬものはいらぬとはっきり自ら判断していくべきです。

また、長期的に使用する社会基盤などを新しく造る際には「活用」することを想定し、25年先、50年先の社会がどのようになっているかをしっかりと見据えていくことが必要です。

さらに、化石エネルギーや鉄など地下から掘り出したものを消費する社会から、リサイクルの推進など消費さらには浪費を抑制し環境への負荷を低減する「循環型社会」、さらには植物由来原料や自然エネルギーなどを積極的に活用する「自然素材型社会」への移行が必要です。

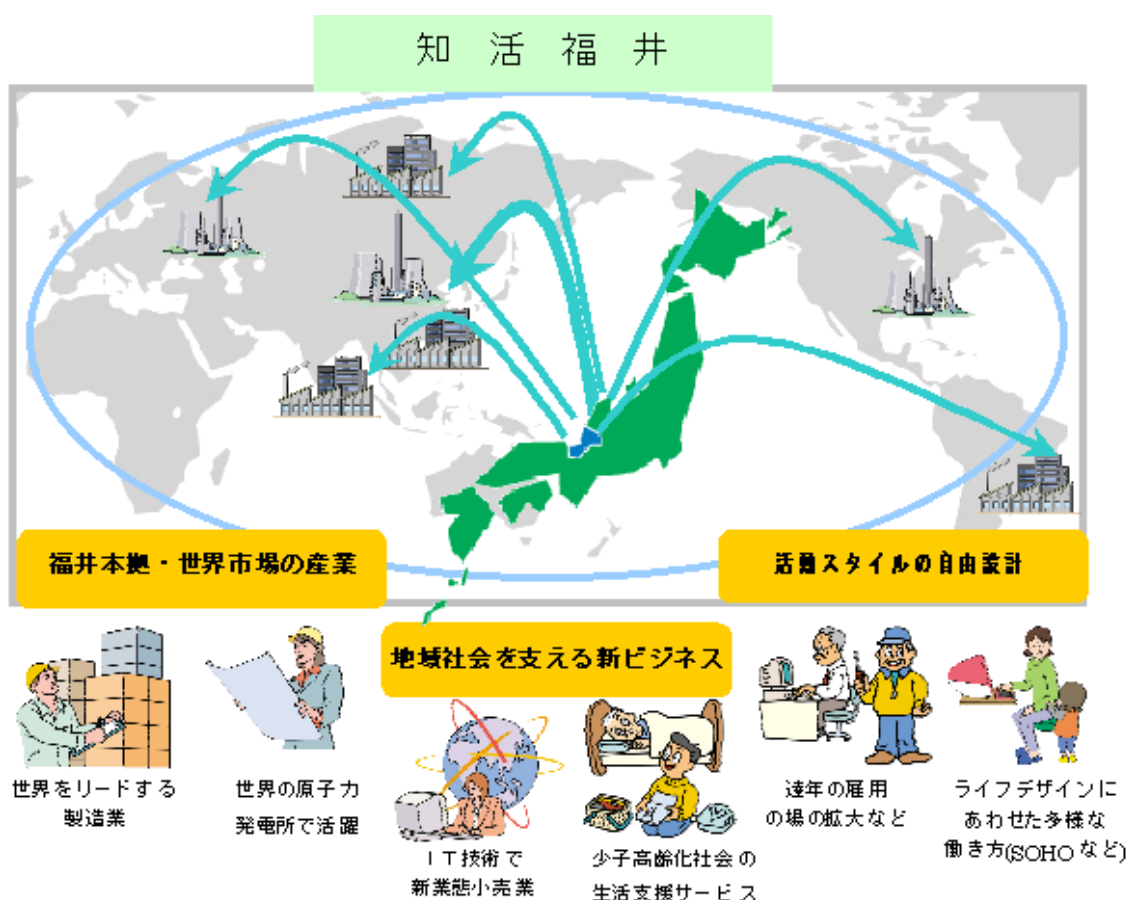
第2章 ちかっ 知活福井

ここでは2030年の「産業・働き方」の姿について描いています。

労働力人口の減少が懸念される中、福井の産業の活力を維持していくため、「健康で長寿」な福井人が、定年などの既成概念を捨て、自らの体力、意欲にあわせ培ってきた知恵を活かしながら、仕事に喜びを見出し働く社会を実現します。また、新しいことにチャレンジしようとする若者を支援する社会を実現します。

一方、グローバル社会、情報社会が到来し、経済が東アジア規模で展開する時代において、農林水産業を含む福井の産業はそれにふさわしいものに自らを変革していく必要があり、これまで蓄積してきた優れたものづくり技術、ノウハウなどの知恵や地理的優位性などを最大限に活かし、高付加価値を生み出す産業に転換していきます。

さらに、地域では女性の就業率の高さや少子高齢化を背景に、多様なニーズに対応した新しいビジネスが生まれ、地域社会の活力を支えていきます。



2-1 活動スタイルの自由設計

(80歳まで社会参加 — 「職持ち」「役立ち」の70代—)

- 平均年齢の推移でみると、25年前の「30代中心社会」から現在は「40代中心社会」になっており、2030年には「50代前後が中心の社会」に移行します。こうした社会の変化に合わせた、「新しい年齢観」が必要になります。

福井県の平均年齢・平均寿命と定年制度の推移

	平均年齢	平均寿命	定年
1980	34.5	76.7	55才→60才
2005	43.9	82.0	60才→65才
2030	49.4	84.3	65才→70~75

*平均年齢は年齢階層別人口からの推計値
平均寿命は社会保障・人口問題研究所推計値

2030年には、ロボット工学の進歩による家族同様の介護ロボット、力仕事の補助ロボットなどの出現や国際分業の進展により体力を必要とする仕事は減少し、経験に裏打ちされた「知恵」や「調整力」を必要とする仕事が増えていきます。

「健康寿命」が全国トップクラスの福井では、豊富な経験を持ち仕事に意欲的な「**達年***」の就業の場と働きやすい仕組みを全国に先駆けて整備し、個人差はありますが75歳頃まではそれぞれの能力、体力、意欲にあわせて働き、さらに、その後も地域活動やボランティア活動など積極的に社会に「役立つ」ことを通じて、地域に貢献していける社会を実現していきます。

* 達年（たつねん）

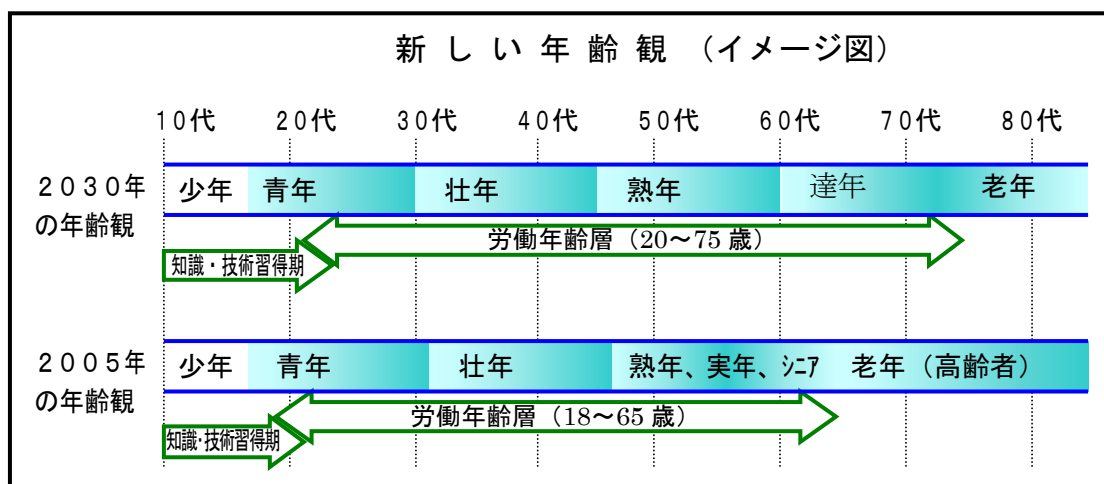
豊富な技能や経験を持ち、趣味や仕事に意欲的で社会に対してアクティブな行動を起こす高齢者。「達人」と「達者」からつくった当検討会の造語

本報告書では、健康な60歳～75歳までの人を「達年」、75歳を超える人を「老年」としています。

一方、企業では、労働生産性を向上させていくために単純な労務や事務は少なくなり、高度な技術や知識、知恵が必要な業務が中心となります。このため、就職するには高い専門能力や資格を身に付ける必要があり、若者が就職する年齢が年々高くなっていきます。

こうしたことから、2030年には、労働力として位置付ける年齢層が、現在の18～65歳から**20～75歳**に変わっていきます。

- ・ NPO、生活支援ビジネス（P91参照）、兼業での農業経験を活かした専業農家化など、達年の就業の場が拡大
- ・ 個人の優れた能力を評価するマイスター制度、起業の支援、達年向けジョブカフェ、退職前に次の仕事の訓練を受けるキャリアアップ休暇制度など、達年が職を得るシステムを整備
- ・ 達年が老年をケアする仕事など、社会貢献度が高く、生きがい、働きがいの感じられる職場の整備
- ・ 短時間勤務や昼寝付き勤務など達年の体力にあわせた勤務形態の普及



（女性・男性の共立社会）

- ・ 福井は女性の労働力率が全国トップですが、育児期に相当する25～34歳の女性の労働力率は低下しています。一方、女性の社会進出が進んでいる他の先進国にはこのような傾向は見られません。

しかし、現状では、女性は家事、育児、仕事の一人三役を求められています。

女性としての優れた「知性」や「感性」を活かし、仕事やボランティア活動、趣味などでの自己実現を目指すためには、女性と男性が協力して家事や育児、介護に取り組むことや、育児後の復職支援、公的な支援のみならず達年グループ等による子育てや介護の全体的支援体制の構築など「女性活動支援システム」を全国に先駆けて充実させ、女性と男性が共立できる社会にすることが不可欠です。

こうした取組みにより、2030年に福井では、女性・男性を問わず個人のワークスタイルを自由に設計できる社会を実現します。

- ・ 男女を問わず育児休業や介護休暇の取得が一般化。さらに、育児のため転居が必要となった際に企業が引越費用を負担するなど、企業が積極的に育児、介護を支援
- ・ フレックスタイム、部分休業、在宅勤務（SOHO）など多様な勤務形態が普及
- ・ 育児休業後の復職に向けたスキルアップの機会を充実
- ・ 個々人の能力や特技を活かして、転職（転社）を図りキャリアアップすることが一般化
- ・ 多様な働き方をバックアップする社会保障制度や給与体系を確立

女性の年齢別労働力率（％）

年齢	20～24	25～34	35～44
日本	70	66	66
福井県	76	71	80
アメリカ	72	75	76
カナダ	75	80	82
ドイツ	66	76	80
フランス	47	79	81
スウェーデン	64	81	87

出典：労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2005」

- ・ IT関連技術がさらに進化し、ブロードバンドもさらに急速に普及することが予想されます。いつでも、どこでも情報のやり取りができる「ユビキタス技術」を積極的に使いこなすことで、働く場所や働き方の選択肢が広がっています。

- ・ スモールオフィスや自宅で端末機を使い「いつでも」、「どこにいても」仕事が可能
- ・ 働きながら育児や介護、地域活動に積極的に参画

(チャレンジ・チャンスのある若者)

- ・ フリーターや派遣社員などの期間を経て「社会知」を獲得してから自分の進む道を見つけることや、転職により自分の「知識」、「能力」を磨き夢を実現していくワークスタイルが広がります。

このため、新しいことにチャレンジしようとする若者がそのチャンスを得るため、年齢を問わず能力開発に取り組めるよう資格や高い専門性の習得の機会を充実させる必要があります。

また、企業における研修制度の整備に対する支援、様々な能力を評価する「能力証明書」制度の普及などにより、中途採用者も新卒採用者と同様に成果や能力で評価されるようにすることが必要です。

- ・ 夜間大学院、ダブルスクールなどスキルアップ機会の充実
- ・ 研修期間中のハーフタイム（半日）勤務制度の導入
- ・ キャリアアップ休暇（研修のためのまとまった休暇取得）の充実
- ・ 社会人向けの教育ローン制度の導入

2-2 福井本拠・世界市場の産業

（世界をリードする福井の技術）

- ・ グローバル社会が到来する中、国際間での水平分業が進展し、安価な労働力が必要な生産工場は東アジア諸国などに移転していきます。

福井には、繊維、眼鏡、機械など特色ある分野で全国トップシェアの高品質な製品を創造してきた技術やノウハウがあります。こうした技術やノウハウを産学官の密接な連携によりさらに伸ばし、世界をリードする「他に真似のできない技術・ノウハウ」を持ち、福井を本拠に世界市場で成功する企業を多数育成していきます。

（世界の知恵が集結する原子力産業）

- ・ 2030年には、県内15基の原子力発電所のうち8基が設置から50年を経過し、高経年化対策、廃炉の問題が現実となっています。

福井は、様々なタイプの原子力発電所が立地しているという世界に例のない技術・ノウハウの蓄積を活かし、原子力・エネルギーに関する研究開発拠点への転換を進めることで、世界最高水準の「知見」を持つ研究者が集結し、様々な研究や研修を実施できる環境を整備します。

- ・ 中国をはじめとする東アジア諸国やロシアなどの経済発展に伴い、酸性雨など国境を超えた環境問題がさらに深刻化すると考えられます。福井の環境を守るためにも、福井で育んだ日本の原子力技術を積極的に移転し、福井がアジアの原子力産業をリードしていきます。
- ・ 産学官が一体となって原子力関連技術の地域産業への移転を進め、原子力発電所の「建設から廃炉まで」一連の作業を担うことのできる企業群を県内に創出し、世界の原子力発電所で**福井の企業・人材が活躍**します。

（「担い手農業」から「農業者の多業種経営」）

- ・ 圃場整備率が全国2位という優良な農地を減らさないために、都市地域と農地を明確に区分して管理していく必要があります。

土地に対する農家の考え方も確実に変化しており、ストックを活かすという視点からも産業として採算が取れるレベルまで農地の集約化を進めます。

さらに、福井の持つ経験的な知識やバイオテクノロジーなどの最先端技術、立地条件の良さを活かした農産物の生産・加工・販売に加え、健康関連事業や観光、環境関連事業などを複合的に行う**多業種経営の企業**を創出します。

- ・ 農地のリース、販売を行う不動産市場が確立
- ・ 農業の専門資格が充実し、農業専門の人材派遣産業が活発化

- ・ 福井は、「コシヒカリ」を生み出してきた高い技術力を活用して、地球温暖化にも対応しうる高品質のふくいブランド米を開発するなど、東アジア諸国の人口を支える重要な研究開発・生産拠点になります。
- ・ 電力移出県である優位性を活かし、LED（発光ダイオード）を用いた農産物生産工場などが立地し、年間を通して、特色ある「**健康長寿野菜**」を関西、中京方面に出荷しています。

（福井でつながる東アジア）

- ・ 福井と日本海を挟んで対岸となる中国をはじめとする東アジア諸国やロシアの**日本海沿岸地域**は、今後、経済や文化が大きく発展すると見込まれており、福井にとって近くて巨大な市場となります。

福井は、地理的優位性と経済発展を先行して遂げた**経験、知識**を活かし、**経済や人材、文化の交流**を通じてこれらの国々の発展を支援するなど、県内、国内に閉じこもらず、積極的に打って出ることが必要です。

さらに、そこで得られた人脈を通じ販路開拓や観光客誘致などを進めることにより、これらの国々を相手に積極的に取引を行う企業を育成していきます。

- ・ 企業の研究開発部門でも東アジア諸国などとの分業を進め、積極的に優秀な人材の交流に取り組みます。

また、外国人労働者については、産業のコスト競争力を維持するために今後も必要となりますが、国際分業の推進により東アジア諸国の現地法人・工場で採用するなど国外を中心に積極的に活用していきます。

- ・ 高い技術力を持った県内企業に、中国やインドなどの優秀な研究者が就業

2-3 地域社会を支える新ビジネス

(生活支援ビジネス)

- ・ 福井の産業は、サービス業の比率が上昇する一方、小売業や建設業の衰退が懸念されています。

しかし、一方で、2030年には価値観・ライフスタイルや仕事・雇用の多様化や女性の社会進出が進むことで、ますます「個」のニーズに対応した**多様な生活密着型サービス**の需要が高まります。こうしたサービスニーズに現場に即した**創意工夫**で対応するNPOや地域助け合いビジネス（コミュニティ・ビジネス）を**発展**させ、**新たな雇用の場**を創出していきます。

- ・ 単身世帯、小規模世帯、老年世帯の増加に伴い、**世帯向けの支援サービス**が**発展**していきます。

既存の商店街単位でも世帯支援サービスを積極的に展開し、様々な情報が集積する商店街は地域の交流の場となっていくます。

- ・ ケーブルテレビの県内カバー率は現在8割を超え、ブロードバンドも今後ますます普及が進むと考えます。これらの社会基盤を効果的に使うことにより、地域や県域を越えて消費者に直接つながる**新たな業態の小売業**が増加していきます。

- ・ 食事宅配、家事代行、健康診断、病院への送迎、子どものお迎え、留守番などの「生活密着型サービス業」が**発展**
- ・ 御用聞き、買い物代行、宅配などの単身、小規模、高齢者向け「世帯支援サービス」が**発展**
- ・ 様々な人や情報が集積する商店街は、小規模世帯の子育て相談や支援、高齢者の交流や介護などの拠点として**繁盛**

(官民複合型の社会資本活用)

- ・ 官から民への流れの中で、長年の活動によってノウハウを蓄積し、全国的、世界的に活動するNPOが誕生します。
- ・ 教育関係や福祉関係など従来行政が担っていた分野で、地域の公共的サービスをNPOなどが支えるようになり、**新たな雇用**が生まれます。
- ・ 経験を活かした子育て支援、増加する老年（76歳以上）への訪問介護など生活密着型サービスや世帯支援サービスの分野に**達年の活躍の場**を広げます。

2030年には・・・

福井元気*さん(66歳)は、半年前、長期雇用を選択していた会社を退職しました。退職後は趣味の旅行を満喫しようとも思っていましたが、何だかもったいない気がしていました。かと言って別の会社でこのままデスクワークを続ける気もありませんでした。体を思いっきり使った仕事もよいと思い、退職前に2か月のキャリアアップ休暇をとり「ネクストライフ就農講座」に通いました。

今は、大野市で就農して、近所の専業農家に相談しながら、家族で食べる野菜と出荷用の里いもを作っています。里いもの収量は多いわけではありませんが、ふくいブランドの「健康長寿野菜」として高値で売れるため、今年の秋の収穫を楽しみにしています。

*2030年コラムの人名はすべて仮名です。

第3章 しつうはったつ 四通八達 福井

「四通八達」とは、道路や交通、通信が四方八方に通じ、人や物が自由に行き来しつながること。

ここでは2030年の「社会基盤」の姿について描いています。

地域の顔である中心市街地の活性化や美しく豊かな農村環境の維持には、中心市街地や農村が、活力に満ちた生活の場、多くの人を訪れる交流の場となっていることが必要です。

これまで、首都圏をはじめとする大都市へのアクセスが他県と比べ相対的に不十分であった福井は、北陸新幹線や高規格道路などの交通基盤の整備が進むことで移動時間が大幅に短縮され、福井と大都市が近接し交流が活発になります。地域内の中心市街地と郊外、農村をつなぐ交通ネットワークも充実し、都市と農村が共生・交流していきます。

また、人口が減少する中、住宅や道路などの社会基盤に余裕が生まれてくる時代になります。

今後は、資源を大量に使って新しく施設や道路を造りつづける「つくる」社会から、中心市街地、郊外、農村のそれぞれが持つ既存の施設や道路を有効に活用していく「いかす」社会に移行していきます。

さらに、環境への負荷の少ない自然素材型社会の構築を進め、生活と自然が共存する、住む人にとっては「誇り」、訪れる人にとっては「魅力」ある福井を創造し続けます。

3-1 アクセス 福井

(三大都市圏に最も近い日本海福井)

- ・ 北陸新幹線が開業することにより、首都圏へのアクセスが大幅に改善され、福井・東京間は、現在の東京・大阪間とほぼ同じ移動時間となり、福井は、**日本海側で最も三大都市圏に近い県**となります。
- ・ 東京23区や横浜市、さいたま市、前橋市などが福井から三時間到達圏内に入ることにより、三時間到達圏内の主要都市の人口が現在の約1,200万人から約2.3倍の約2,700万人に膨れ上がります。

【参考】北陸3都市と3大都市間の移動時間

	大阪	名古屋	東京	計	福井との差(分)
福井	1:00	1:42	2:40	5:22	
金沢	1:20	2:01	2:22	5:43	+21
富山	1:35	2:16	2:07	5:58	+36

- ※ 1 北陸新幹線が大阪まで整備されたことを前提
 2 新幹線の表定速度を240km/hとして試算
 3 敦賀から名古屋は在来特急を利用

また、北陸新幹線が開業することにより、福井は次のような都市よりも東京に近くなり、本来の地理的優位性を取り戻します。

○関西方面：姫路(3:10) 奈良(3:02) 神戸(2:53)

○東北北信越方面：八戸(3:06) 山形(2:51) 松本(2:51)

※ (): 鉄道所要時間

- ・ 福井は、首都圏から1泊2日で遊びに来る手頃なエリアとなり、初めて福井に来る観光客を大幅に増やすことが可能になります。また、関西、中京圏からは日帰りもしくはリピート客が大幅に増加します。魅力ある中心市街地や観光地づくりを進めることで、**県外からの観光客数を2~3倍に増加**させることも可能となります。

北関東や甲信越の主要都市へのアクセスは片道2時間以内となり、群馬県にある企業とのビジネスが生まれたり、福井から軽井沢に日帰りで遊びに行ったりすることができるなど、企業のビジネス活動や県民のレジャーの範囲が飛躍的に向上していきます。

北陸地域内での移動時間が短縮して域内の一体化が進み、金沢、富山から福井へ通勤する人が見られるようになります。

- ・ 雇用や魅力のある地域には人が集まります。例えば、福井の繊維産業が伸びていた昭和36年から38年の3年間で、北海道から鹿児島まで全国23道県から約3,000人の中卒者が福井に集団就職しています。

舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の開通や県境をまたぐ道なき国道の整備、J R北陸線の直流化などにより、関東、関西、中京圏からの移動時間を短縮します。特に、関西・中京圏の人から見た身近な地域としての福井のイメージを定着させ、気軽に週末を過ごしに来る人を増やし**逆ストロー現象**を巻き起こします。

○敦賀市～神戸市	3時間50分	⇒	2時間50分	1時間短縮
○大野市～名古屋市	2時間30分	⇒	1時間50分	40分短縮

(東アジアの玄関口福井)

- ・ 東アジア諸国の経済発展が続く中、福井は中国をはじめとする東アジア諸国やロシア対岸への日本海側の玄関口として、北陸新幹線や高速道路網の整備により利便性の増した福井港、敦賀港や小松空港をフルに活用し、観光や経済、人材の交流を活発に行っていきます。

2030年には・・・

今日は夕方7時から、私たち夫婦と子どもたち、祖父母と、駅西の屋台村で家族そろっての食事会だ。

普段は離れていてもネットビジョンで家族の状況は十分わかるが、やはり直接会うといろんな話しが聞ける。

では、食事会までの動きを確認してみよう。

長男は東京の大学で4時まで講義があり、新幹線で福井に向かっている。

長女は福井市内の高校の看護コースに通っており、今はインターン制度で大阪道頓堀の病院で研修中。今は、看護師も様々な資格が必要で、長女が希望する資格を取得するには、大阪の病院での研修が必要なそう。5時半に終わるので何とか7時には間に合いそう。

今年共に82歳になる祖父母夫婦は、マイカー運転を自粛した7年前から、県立病院近くのケア付住宅で暮らしている。今日は、無料のえちぜん鉄道に乗ってやってくる。

私たち夫婦と次男、三男は越前町朝日からマイカーで福井鉄道水落駅無料P & R駐車場へ。福井鉄道は、私の通勤定期で休日は家族全員が乗車できるのでとても便利で快適。

今日のメニューは、福井産の食材を使った越前長寿そばコースだ。9時まで食事ですの後は駅西クアハウスで汗を流して洗い合いをする予定。

(ノーマイカー交通システムの実現)

- ・ 今後、老年の人数が増加し、免許を持っていても車の運転をしない老年が増えるなど公共交通機関へのニーズが高まります。

75歳以上の人数(万人)

2000年	2030年	増減
7.4	13.7	+6.3

資料：当検討会推計値

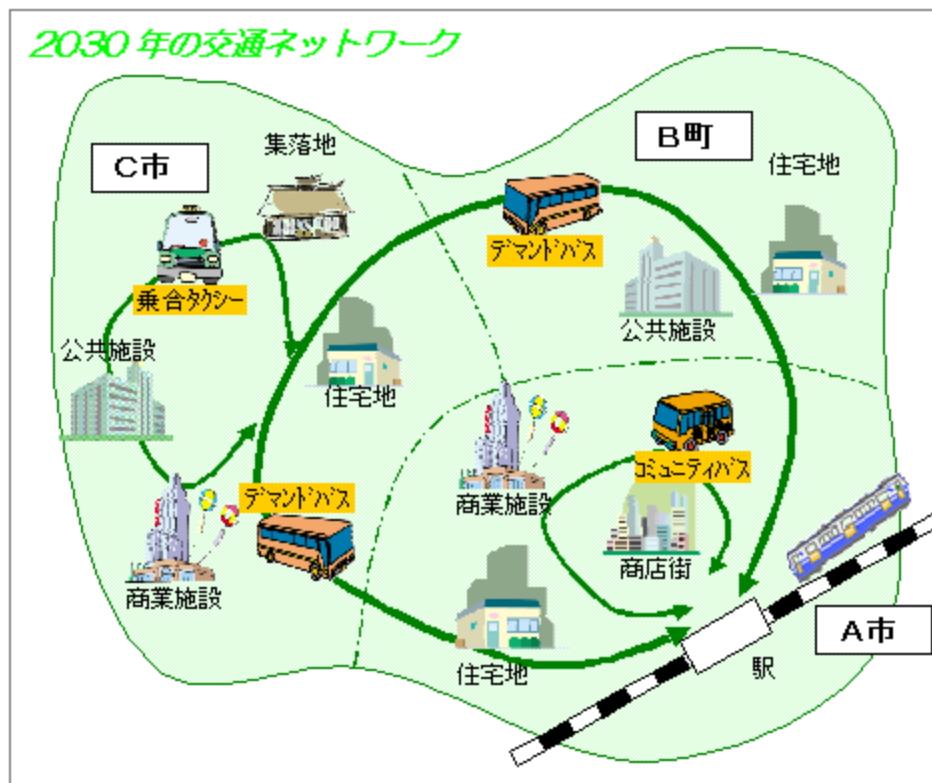
面積も小さくよくまとまった県土であるという福井のメリットを最大限に活かし、郊外と中心市街地を直結する鉄道と、自宅近くまで迎えに来るデマンドバスや乗合タクシーなどの交通機関を組み合わせ、その利便性と経費を車と同程度にし、車に頼らなくても30分以内に日常生活に必要な場所に低料金で気軽に移動ができる交通システムを実現します。

一方、従来の大型バスを長区間走らせる定期バス路線は、乗客の減少と便数の削減による利便性の悪化という悪循環に陥っており、徐々にその役割を終えていくものと考えます。

- ・ 鉄道、バスなど交通機関の連携、周環型と放射型のバスルートの整備・連携、無料化、本数増などで水平エレベータのように自由な移動が可能
- ・ 低床車両の導入などにより、需要に即応して駅を設置
- ・ 基幹的な交通機関である鉄道とデマンドバスや乗合タクシーが連携し、携帯端末やGPS(位置検索)システム等を活用し、乗客のリクエストに応じ迎えに行く「公共交通利用支援システム」が普及
- ・ 達年が中心となって安価な乗合タクシーを運行
- ・ 中心市街地や鉄道駅、主要なバス停などの駐車場の一元管理を行い、駐車料金を、市街地から離れた駐車場は無料にする距離累進制の導入などにより「パークアンドライド」を促進
- ・ 交通弱者の利用が多い公共施設には低料金もしくは無料の交通手段を確保
- ・ 全国に先駆けて走行実験を行った電車の燃料電池化を進め、架線が不要な、雪に強く、景観的にも優れた管理のしやすい鉄道を実現

ヨーロッパでのマイカー移動制限政策

- ・ ドイツ・フライブルグでは、1973年に中心市街地の700m四方への乗り入れ禁止。また、市街地付近の駐車場における高めの料金設定、駐車時間の制限によるP&Rを促進
- ・ フランス・ストラスブールでは、1992年から、歩行者空間の拡大、自転車レーンの設置、車の一方通行や通行禁止などの交通規制、都心部の駐車場の削減を実施
- ・ ノルウェー・ベルゲン(1986～)、オスロ(1990～)、トロンヘイム(1991～)では、市の中心部への流入車両への賦課金制度を実施



- ・ 車への依存度が高まれば、自然環境や生活環境をさらに悪化させる危険性をはらんでいます。環境への負荷が様々な形でコストとなるなど、新しい道路をつくり続けることは困難な**選択と集中**の時代になります。

福井では、市や町が中心となり**最適地域標準**（ローカル・オプティマム）を目指して、今あるストックを有効に活用し、大事に「いかす」ことを前提とした道路の維持・管理を行うとともに、**鉄道などの公共交通と道路を一体的に運営**していきます。

また、車のためだけの道路ではなく、歩行者や自転車を優先し車のスピードを上げさせない道路づくりを進め、**ゆとりと譲り合いの心を持った「スロードライブ社会」**を実現します。

- ・ 高度道路交通システム（インテリジェント・トランスポートシステム）が導入され、輸送交通の向上や交通渋滞の緩和を実現
- ・ 多世帯で車を共同利用するカーシェアリングが普及
- ・ 地球環境に優しい燃料電池車が実用化され普及し、大気汚染や騒音などの環境問題が緩和
- ・ 歩行者や車、道路状況等を感知するなど安全運転のための補助運転システムが進歩し、交通事故が減少
- ・ 道路と鉄道などの公共交通は、共通財源により整備

- ・ 福井は世帯当たりの自転車（バイク）保有台数が全国4位であり、また、平坦な市街地が多いことから、自転車利用がしやすい環境にあります。現在、通勤通学で自転車を利用している割合は16%で全国31位と決して高くありませんが、自転車道の段差解消など自転車が走りやすい環境の整備を進め、2030年には多くの人が通勤や通学に**自転車**を利用する社会を実現します。

- ・ 電車に自転車もいっしょに乗り込むことが可能な環境の整備
- ・ 自転車道の段差解消など、自転車が走りやすい環境の整備
- ・ 駅やバス停を中心とした自転車シェアリングが充実。まちのあちこちにシェアリング用自転車が点在し、学生は通学に、主婦は買い物に、観光客は自転車での散策を満喫

3-2 都市と農村の共生・交流

(ウォーブ都市* ー中心市街地ー)

- ・ 北陸新幹線の開業に向け、福井駅、南越駅などの停車駅の新設、改築等が行われ、地域の「顔」ともいべき中心市街地活性化に向けた大胆なまちづくりや再開発を進めるチャンスが訪れます。

中心市街地では、集積している公共施設、商業施設、医療施設などの既存ストックを活かしながら、「歩くことを楽しめるまち」、「多世代が楽しめる

まち」として市や町が中心となり最適地域標準（ローカル・オプティマム）の発想で整備を進め、魅力ある場所として活気を取り戻します。

さらに、中心市街地の空洞化に伴い増えた空家住宅を社会のストックとして循環させるシステムを整備し、医療施設に近接した住宅を求める老年や学校に近接した住宅を求める家族、にぎわいや職住近接を求める夫婦などが最適の居住環境を求めて移り住む、「快適に住めるまち」を実現します。

- ・ 福井の中心市街地では、若者や達年など個人が経営する小さくてもこだわりのある個性的な店が集積した県内外から多世代が訪れショッピングを楽しむまちづくりを進めていきます。

併せて、年代を問わず個店の開業など**自分の可能性にチャレンジ**することができるまちを創造していきます。

- ・ あわら市、越前市、敦賀市などの駅の周辺（東西南北）においては、行政と市民の協働によりそれぞれの持ち味を生かした都市づくりを競い、個性的な街並みの整備を進めます。

- ・ 公共交通機関のコア圏内の無料化やワンコイン化などにより中心市街地内を移動する際の利便性を向上
- ・ 福井駅周辺では、県庁舎が移転し、住民や観光客の憩いの場となる城址公園として整備
- ・ 中心部への車両を規制するなど車と歩行者をすみ分け
- ・ 高架下や路上スペースを利用した路上ライブやフリーマーケットの開催
- ・ 古きよきもの（歴史的遺産）の保存・活用

* 「ウォーブ都市」

公共施設や商業施設、医療施設などの集積を活かし、歩いて移動することを楽しめる街を指す、「ウォーク (Walk)」と「ムーブ (Move)」を組み合わせた当検討会の造語

(自然を実体験する農村)

- ・ 農村では、過疎化や高齢化が進み、耕作放棄地なども生まれてきており、地域社会や里地里山などの懐かしい原風景の維持が課題となります。

マイペースにゆったりと人生を楽しもうというスローライフが定着している中、バーチャルでは味わえない、「**実体験からくる本物の感動**」が大きな価値を持つようになります。

福井の農村では、豊かな自然やおいしい水、食べ物、伝統的民家、祭りや伝統芸能など固有の文化を活かして、自由な時間やゆったりとした空間という**生活の質**を贅沢に楽しめる新たな魅力を生み出していきます。

- ・ 伝統的古民家、田畑、里山など人が生活しているからこそ維持できる、懐かしく思える農村の暮らし「原風景」を再現
- ・ 「漬物」や「なれずし」など、その土地ならではの味を競うことで、本物の農村食文化が再生

(ライフステージホーム社会)

- ・ 世帯数の減少により住宅が余る時代が訪れます。こうした「余剰住宅」を社会の資産として活かしていくことが必要です。

福井では、中心市街地や農村で「**住み替え・住み継ぐ**」ことを前提とした良質な住宅の建設を進め、こうした**住宅ストックを循環**させるシ

*** 「ライフステージホーム」**
ライフステージに応じて住み替え、そこで暮らし活用する住宅を示す。
所有することを目的とした住宅「マイホーム」に対する当検討会の造語

ステムを構築します。これにより、**住む場所の価値**を大事にし、夫婦二人のときは職場の近く、子供の進学にあわせて学校の近く、子供が独立したら田舎で悠悠自適の生活、介護が必要な年代になったら中心市街地のケアサービスの充実した住宅に移るなど、ライフステージに応じて**住み替える家族**が増えていきます。

- ・ 家の購入や販売がネットでも出来るような、「住み替え・住み継ぐ住宅」をあっせんするための「循環型住宅市場」が確立
- ・ 県産材を使用した、100年以上住み続けることが可能な本物志向の住宅が増加
- ・ 住宅を資産として残し「住み継いでいく」ために、バリアフリーやセキュリティ、耐震性等が充実した安全・安心・快適な住宅やライフステージに応じて変更可能な住宅が増加

(景観を活かす街並み創造)

- ・ 住んでいる場所に愛着を持つ人が多い地域では、住民自らが美しい街並みの保存を計画するなど、住環境の整備に自主的、積極的に取り組んでいます。「余剰住宅」が増える中、住宅は「所有する資産」から「利用する資産」としての価値を持つ時代が訪れます。

福井では、住民自らが周辺と調和した**美しい街並み**を創造することで、地域への誇りと愛着を持つだけでなく、景観を含めて評価される住宅の資産価値を高めることが可能な社会を実現します。

また、地域全体の景観を維持することを目的とした山林や農地の開発制限を行っています。

2030年には・・・

坂井市の三国花子さん(78歳)は、大きな家のそうじも大変になったので、今度、娘夫婦の家の近くに移り住むことにした。

大事に住み継いだ100坪の家は、梁も柱も立派で、耐震性にも優れた丈夫な家だ。バリアフリー化も済んでいる。不動産屋さんの斡旋で、ネクストライフを楽しむために名古屋から移り住みたいという人に、売ることになった。伝統的民家が建ち並び昔懐かしい景観を維持しているこの地域は、けっこう人気の移住地みたいだ。名古屋からは、中部縦貫自動車道ができて、とても便利になった。

三国花子さんの娘、町子さん(40歳)は、ご主人の職場近くの戸建て住宅で暮らしている。ご主人の会社までは、自転車ですぐ10分。朝は、子どもたちとゆっくり朝食を楽しみ、子どもを学校まで送り届けてから出勤だ。町子さんは、近くの図書館で読み聞かせのボランティアをしている。

今度、母が近くのマンションに越してくる。日々の様子はテレビ電話でも十分確認できるが、マンションの1階には病院もあり、何かあったら直ぐに駆けつけることができ安心だ。「おばあちゃんが近くにいる」ということで、子どもたちにも良い影響があるのではないかと期待している。

(福井と外との二地域居住)

- ・ 福井では、三大都市圏に近いという地理的優位性を最大限活かし、**エコ・グリーンツーリズムの拠点**として、都市部に住む人にとって気軽に日帰りや民泊により、質の高い田舎の日常生活に触れ合うことのできる農村を実現していきます。

- ・ 2030年には、全国で約**1,000万人**が都市部と田舎に二つの家を持つ「**二地域居住者**」となると予想されています。(国土交通省:「二地域居住」に対する都市住民アンケート調査結果と「二地域居住人口」の現状推計及び将来イメージについて [H17.3])

関西、中京圏から2時間圏にある福井では、県外の都市部で生活している人が、「第二のふるさと」として、農山村部にある伝統的住宅を広くて安価なセカンドハウスとして持ち、都会でできなかった自由な時間やゆったりとした空間、地元の食材を使ったおいしい食事など生活の質を贅沢に楽しむ「**週末田舎暮らし**」を満喫しています。

- ・ 伝統的住宅の空き家情報を全国に提供
- ・ 穫れたての食材を使った田舎風レストランや農業体験など、豊かな田畑や自然環境を活かしたグリーンツーリズム、エコツーリズムなどの受け入れ体制を整備

- ・ 都市と農村の交流を活発化させ、農地や森林、里山を「週末田舎暮らし」に来る人々に貸し出し、普段の管理を請け負うビジネスを展開するなど、**農地を減らさず**、森林、里山とともに社会資本として活用し維持する新しいサイクルを生み出します。

- ・ 共有林を認可地縁団体（法人格を持った地縁団体）の財産とするなど社会資本として積極的に活用できる環境の整備

2030年には・・・

上中一郎さん（55歳）は、大阪の商社に勤め、大阪市内の3LDKのマンションに住んでいます。

昨年、奥さんと二人でドライブしていたときに、若狭地方を通り、その風景やおいしい水が大変気に入りました。大阪のマンションでは、狭いベランダでトマトやきゅうりを作っていましたが、いつか二人で本格的に農業をすることが夢でした。

そこで、奥さんと相談し、若狭地方で週末に農業を楽しむための家を購入することとしました。インターネットで調べたところ、「ふくい住宅市場」というホームページで、若狭町に農作業小屋付、庭付きの大きな一戸建てが紹介されており、手軽な価格で手に入れることができました。

若狭町には、同じように大阪や京都から週末田舎暮らしを楽しんでいる先輩たちも大勢いて、農業の手ほどきを受けながらかぼちゃや白菜、大根づくりにトライしています。畑は、普段近所の人が管理してくれているので、週末行けないときがあっても安心です。

農作業を通じて、近所の人たちとも親しくなり、夜、家に呼ばれて健康長寿料理と自家製のどぶろくをご馳走してもらったり、我が家にお呼びして、近所の多業種経営農業の社長から分けてもらったワインを楽しんだりしています。

将来、会社を引退したら、若狭町に移住して、本格的に農業を始めようと考えています。

3-3 高質な自然を守り活かす福井

(活かし守る自然)

- ・ 福井は、身近に豊富な自然が集積しており、森の癒し効果を活用したりハビリテーションや川や滝のマイナスイオン効果による健康増進等の医療・福祉分野、自然体験学習等の教育分野などで**自然を積極的に活用**していきます。

- ・ 自然環境を、保護に固執するのではなく、医療・福祉、教育などに積極的に活用
- ・ 森林などの個人の所有物である自然についても、積極的に開放・活用し、多くの人が関わることで自然環境を維持
- ・ 福井の林道を活かしたマラソンやマウンテンバイク競技、河川を活かしたカヌーなど自然を楽しむスポーツを振興
- ・ 車両を電気自動車に限定する自然保護エリアを設置するなど、自然とのふれあいを望む人々が集う場所を創出
- ・ 地域の住民が協力して四季折々の花を植え、訪れた人を魅了する自然景観を整備

- ・ 福井の豊かな自然を求め、NPOなどが運営する林間学校や臨海学校に、県外から多くの子どもたちが夏休みを過ごしにきて、県内の子どもたちとの交流も盛んになります。

2030年には・・・

夏休みには、NPOが勝山市で経営する「森の学校」に、大都市圏から大勢の子どもたちがやってきます。今日は、山に出かけ恐竜化石の発掘体験です。明日、明後日は山で自然の空間を目一杯使ってのかくれんぼや冒険遊びなど、子どもたち自らが遊びを工夫して過ごします。今週末は海に出かけ、超小型酸素ポンベを使った海底探検を楽しむ予定です。

福井では、1時間もすれば山へも川へも海へも出かけることができます。京都市に住む小学5年生の元気くんは、お父さんが福井駅の近くにセカンドハウスを持っており、週末や夏休みには、このセカンドハウスから、自然の中に遊びに出かけます。地元の子の何人かと友達にもなりました。今度の週末は、福井の友達と一緒に、自家用ライトプレーンで大空の散歩を楽しむつもりです。

- 福井を海上や空から見ると、普段見ているものとは違う海と陸が一体となった景色が見えます。海と陸が一体となった美しい恵み豊かな自然は福井の大きな財産です。海は、漁業やレジャーに加え、二地域居住の場としても大きな魅力となり、この財産を活かすことで都市住民との交流などを促進していきます。



(自然素材型社会の実現)

- ・ ゴミ問題など環境に対する社会的費用が増大する中、福井では、過去の自然が生み出した化石燃料などを掘り出して使うのではなく、今の自然から得られる植物由来原料や太陽光、地熱などの自然エネルギーを活用する、「**自然素材型社会**」を実現します。

- ・ 自然環境や生態系に影響を与えている化石燃料の消費やコンクリートの使用を低減
- ・ 不法投棄など自然を汚す行為を防止するパトロールなどを自主的に行う地域社会が実現
- ・ CO₂等の排出量の抑制に向けて、民間や地方公共団体が一体となり、具体的な数値目標を設定して改善を実施
- ・ 使った後自然に帰る植物由来原料を活用した製品の開発・普及
- ・ 生産から消費・廃棄までの環境影響を考えた製品開発が企業の社会的責任(CSR)として定着
- ・ 農業用水路における小規模水力発電や地熱による歩道融雪、雪の冷熱エネルギーによる農産物の貯蔵など自然エネルギーの利活用システムが低コストで実用化

第4章 ふく えん 福 縁 福 井

ここでは2030年の「地域社会」の姿について描いています。

人と人とのつながりの希薄化により、地域に内在していた教育力、防災力、防犯力などが弱くなってきています。比較的治安のよかった福井においても犯罪が多く発生するようになりました。

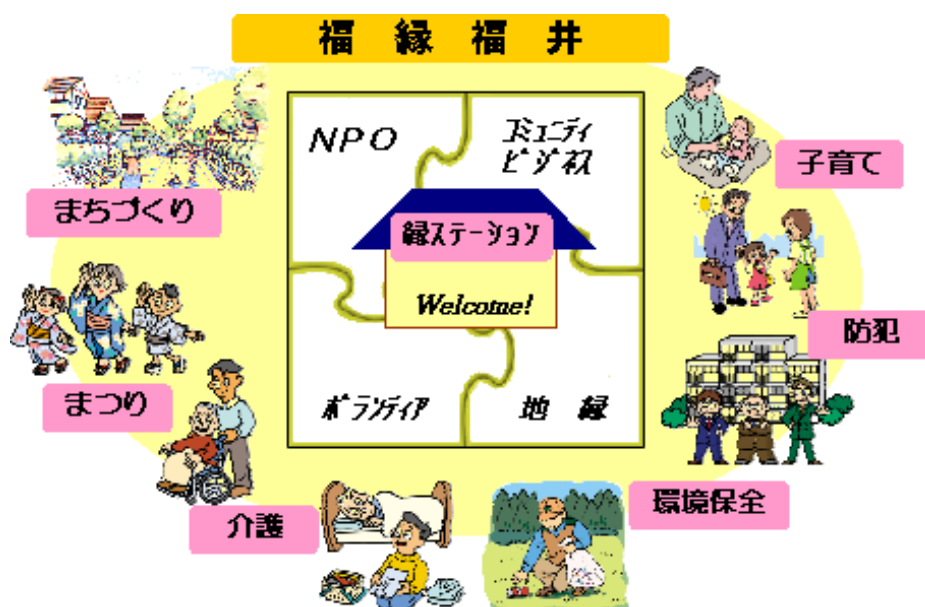
三世同居率が高く、まだ「地縁」が残っている福井においては、従来からのつながり「地縁」による地域活動に加え、特定の目的で有志がつながる新しい縁「福縁*」による活動が広がり、地域パトロール、介護、祭等の活動を活発に行うようになります。

このような助け合いを重ねることで、住民相互の強い信頼が生まれ、福井では、「本物の安心」が実現します。

*「福縁」

特定の目的のために有志が集まり、NPOやボランティア、地域助け合いビジネス（コミュニティビジネス）、趣味などの活動をするところに生まれる「つながり」を指す当検討会の造語（幸福をつなぐ縁）

地域福祉や相互扶助など他人への貢献を目的とした活動に参加することで、地域への誇りと個人の充足感・達成感（＝幸福）も得られる。



4-1 つながる・広がる「福縁社会」

（「三世代同居」が支える家族）

- ・ 「個」を重視する価値観が広がる中、「個」が「孤」とならないためには、離れてもお互いが支え合う、人間としての強いつながりを持った家族関係が必要です。

三世代同居率が高く、家族のつながりもまだ強い福井では、余剰住宅や広い土地を活かして、三世代が近くで生活をする「三世代同居」が増えることにより、お互いの生活を尊重しながらも、多世代が強いつながりを持ち協力して生活する社会にしていきます。（2030年頃には「四世代同居」も多くなっています。）

また、進学や仕事のために遠隔地に住む場合であっても、ITの進歩により隣部屋にいる感覚でお互いを確認することができ、高速交通体系の整備により気軽に行き来ができるなど距離を感じない家族生活をする事ができています。

- ・ 子育て、介護、地域活動、単身高齢者といった課題を地域社会と三世代同居が解決
- ・ 「三世代同居」の普及により、地域に顔の見える人間関係が復活し、犯罪の起きにくいまちを再現

（地縁の復活と地域の自立）

- ・ 生活の利便性の向上に伴い、地域と助け合わなくても生きていける時代になりました。そのため、地域活動にまったく参加しない人も増え、このままでは地域社会が成り立たなくなる恐れがあります。

福井では、地域間の移動が少なかったため、現在でも町内会などの地縁が比較的残っています。さらに現役引退後の「団塊の世代」が仲間意識の強さやネットワークの広さを活かし、地域社会の担い手として地縁の復活に力を発揮していくことが期待されています。こうした人を中心に、自分たちの住む地域の環境美化など地域の問題は地域で解決する、自分の住む家の前の雪は自分で捨てるなど自分のことは自分でやるといった、当然の節度と責任を持つ**自立した地域社会**を実現します。

- ・ 達年が、地域のあるべきルールづくりや教育、健康・福祉、環境保全などの社会意識の醸成にリーダーシップを発揮
- ・ 大人がきちんと地域社会の約束事を守ることで、子どもたちにも約束事を守る精神を育成

- ・ 女性の社会参加が進んでいる福井では、自治会長の半数が女性になるなど、様々な団体で女性の役割が高まり、男女が協力して地域活動などに取り組んでいます。
女性の声が地域活動に反映されることで、暖かみがある街並みや快適で安全な居住空間を実現していきます。
- ・ 官が、住民が利用しやすい方法でわかりやすく積極的に情報を提供することにより、地域の課題については、地域住民自身が様々な情報をもとにサービスと負担を選択できる「地域自治」を確立するなど、地域の自立を促します。

（新しいつながりー広がる「福縁」）

- ・ 福井は、公共に対する意識が高く、また、世帯人数が多く社会貢献活動に参加する時間的余裕も生み出せるなど大都市圏にはない土壌があります。マイタウンパトロール隊などの活動にも、多くの方が積極的に参加しています。

この福井において、「地縁」、「血縁」、「職縁」による既存の地域活動に加えて、特定の目的の下で有志（「個」）が集まる「福縁」による活動が広がり、子育て、防犯、防災、まちづくり、環境など様々な課題に自主的に取り組んでいく社会を実現します。

また、自発的な「福縁」によるつながりは地域や職場を特定しないため、一人の「個」が複数の「福縁」のつながりを持つなど、つながりがつながりを呼んでネットワーク化され、災害や犯罪への対応の際にはより多くの人に協力を呼びかけられるなど強い力を発揮します。

- ・ 老年や単身世帯の増加に対応してNPO、コミュニティビジネスが従来の地域活動を補完
- ・ NPOやボランティアなどが行政のパートナーとして機能し、地域のきめ細かなニーズに迅速に対応
- ・ 保育園や児童館といった行政が従来行ってきた分野もNPO等に委託
- ・ 規制緩和でボランティアの活動範囲が大幅に拡大

- ・ 住民としての企業の社会貢献活動も活発化し、子育て支援や自然環境の保護、地域づくりなどに積極的に取り組みます。

- ・ ボランティアなどの社会貢献活動に直接参加できない個人や企業が、活動の支援を目的とした「寄附」を積極的に行うようになり、こうした資金により、活動が活発化するとともに、活動を継続し志を次の世代に引き継ぐことが可能になります。

- ・ 個人や企業が気軽にNPOやボランティア、行政に寄附ができる税をはじめとする制度の整備が実現

(縁(えん)の拠点「縁ステーション」)

- ・ 地域活動は、何かきっかけがないと参加しにくいものです。また、地域外からの参加は、活動を継続させる仕組みがないと単発的になってしまいます。

福井では、住民一人ひとりが自分のできる地域活動に参加できる「縁ステーション」を設置し「福縁」をつなぐとともに、既存の公民館も地域活動を支援する様々な新しい役割を果たし、「漏れのないコミュニティ」を形成していきます。

- ・ 子育て、介護、防犯、防災、まちづくり、環境保護、病院サービス、イベント、祭、民間企業活動など様々な分野の活動情報を集約し、提供するシステムが確立

* 「縁(えん)ステーション」

公民館や集会所、空き店舗、廃校等の既存ストックや個人の家などを活用して、地域住民が運営する場所で、地縁、福縁等縁がつながる「拠点」を指す当検討会の造語

いつも人がいて地域のつながりを意識できる場所であり、かつ、地域活動情報と福縁活動情報が集約され、それを提供するシステムがある場所

- ・ 「縁ステーション」を拠点として福縁、地縁、血縁等様々な縁がネットワーク化することにより、ボランティア活動を活発化させるなど人と人のつながる機会を広げます。

- ・ 学生や企業従業員のボランティア活動に対し、単位取得のための参加証明やボランティア休暇の証明などを実施
- ・ 個人の条件（空き時間や希望内容等）と地域活動のマッチングシステムを確立
- ・ 地域への貢献実績を行政サービスの優先的受給、地域通貨等の方法で参加者へ還元

4-2 福縁を通じて高める安全・安心

(安全・安心を信頼のレベルに)

- ・ 犯罪に対しては、私たちの生活の安全は永久に保障されるわけではありません。たとえ、機械警備による要塞都市のような“安全な”まちを作ったとしても、常に周囲に疑いの目を向けながらの生活を強いられることになります。

福井では地縁の復活と福縁の支えあいにより、地域に固い「信頼」が生まれ、お互いが助け合って、犯罪や災害などどのようなリスクにも立ち向かえる地域を実現していきます。

- ・ 犯罪・災害等に関する情報提供により、他人まかせでなく、地域で守り合う意識が浸透
- ・ 身近な場所を住民が守ることにより、警察は高度な犯罪、常習者への対応を強化

* 「安全」「安心」「信頼」

「安全」とは客観的にみて危険のない状態、「安心」とは心に不安がなく落ち着いて過ごせる状態を指し個人の主観に基づく。

「信頼」とは、同じ目的の実現のため共に行動することにより得られる心のつながりを意味する。

「信頼」は、与えられた「安全」、「安心」を本物の「安全」、「安心」に高めるためのキーワードである。

(日本で最も安全・安心な福井)

- ・ 今では、子どもたちが近所を遊びまわることすら不安な社会になっています。福井では、住民が相互に協力して地域の防犯、防災など地域の安全性を確保し続けることで、2030年には、犯罪の日本一少ない県となり、都会から多くの人々が「安心」を求めて福井に移住する「日本で最も安全・安心な福井」を実現します。

2030年には・・・

今日は街中のウォーキング巡回の日です。集合場所は廃校を改修した「WAKASA 縁ステーション」。レトロな木造の教室の雰囲気がそのまま残っており、マスターである近所の佐藤さんの人柄もあっていつも幼児連れのお父さんやお母さん、ボランティア活動の情報を集めに来るシニア世代で混み合っています。

かつての図画工作室がカフェになっており、そこでは募集中のボランティア情報とボランティア希望者とのマッチングができます。迷っている人に対してはマスターが相談役も兼ねています。息子はここで、障害者の方が運営している自然食レストランでのボランティアを見つけ、毎日楽しそうに出かけていきます。どうもシェフをめざしているらしい。

カフェの隣の会議室では市役所の人と若狭子育て NPO のメンバーが新しく委託する保育サービスについて打ち合わせをしています。友人の和子さんは、かつて教員として勤務していたこの地区で子どもと接する仕事がしたいと、今回の NPO 活動に敦賀から通っています。

巡回が終わったらカフェで和子さん達と来月開催される若狭まつりの最終打ち合わせをする予定です。韓国からのゲストもよんで、伝統の獅子舞をそれぞれ演じるのですが、前回の打ち合わせのときカフェにたまたま来ていたお隣の吉川さんが、得意のハングルを生かしてゲスト対応係を引き受けてくれることになり心強い限りです。

子どもたちの下校の時間です。さあ、巡回に出発。今日のメンバーは街中ウォーキングが趣味という隣町の山田さん夫妻も含めて 6 人。警察から送られてくる最新の事件情報や犯罪者情報では特に変わったことはない。子どもたちの元気な挨拶を聞けるのが楽しみです。

第5章 ^{ゆめ}夢 福井人

ここでは2030年の「人」の姿について描いています。

経済が低迷し社会格差が拡大する中で、将来に夢や希望を持たない、持てない人たちが増えています。しかし、人と同じことをすれば暮らしていくことができた時代は終わりを告げ、スピードと変化の激しい時代が訪れています。

このような時代をたくましく生き抜くためには、一人ひとりが自立し、自分の夢の実現に向けて学び、チャレンジしていくことが必要です。

また、ファストフード依存など食生活が乱れ、肥満も増えるなど将来の健康に不安があると言われる現代人にとって、長い人生を生きていく上で健康であることはとても重要なことです。

「ねばり強く、勤勉でまじめ」と言われる福井人は、健康を維持し、夢をかなえる努力を惜しまず、グローバル社会において、世界を相手に堂々と生き抜いていきます。

さらに、福井が、若者が将来を託せる夢と希望のある社会であるためには、世界が平和であることが必要であり、そのための努力を続けます。

5-1 一生自学の時代

(子ども中心の社会)

- ・ 現在の子どもたちは、少子化が進む中で、両親と両親のそれぞれの祖父母の6つのポケットを持つといわれるほど過保護に育てられている例が多く見られます。

一方、親の身勝手に子どもの教育がおろそかになることも増えています。

しかし、子どもは、大人になるための過渡期的な存在ではなく、一人の人間として存在しているのです。大人中心の社会の中で親の都合にあわせて子どもの進む道を決めたり、過保護に育てたりすることは避けなければなりません。

子どもたちを、グローバルな社会の中で生き抜いていける人間に育てるためには、子どもを独立した社会的存在として認め、子どもたちが自ら考え、チャレンジすることを、親や社会が子どもの目線でアドバイスし、支えていく「子ども中心の社会」にしていかなければなりません。

さらに、大人たちも、子どもたちの意見やアドバイスを真摯に受け止め、お互いに高め合う「助言社会」となる必要があります。

- ・ 家庭では、子どもの好奇心を摘むことなく、親自らの様々な体験を通じて「社会に出て生きるということ」を語り、子どもの夢や希望の実現に向け進路の選択肢を与えるなど支援
- ・ 地域や企業では、小学生の頃から、それぞれの子どもの興味や好奇心にあった職を紹介し、体験する機会を提供

(子どもの自立と自学)

- ・ 誰もが「どこに所属しているか」、「どこに勤めているか」ではなく「どんな業務をしているか」、「どんな資格を持っているか」を名乗るなど、仕事に対する専門性が強く求められる時代になり、子どものうちの早い時期からそれに備えなければなりません。

子どもたち一人ひとりが自分の能力や特技を活かして自立して生きていくためには、子どもの頃から自分の「夢」や「進みたい道」について考え、意欲的に学び努力していくことが求められます。

- ・ 子どもたちが学ぶ学校教育については、行政や学校の都合を子どもたちに押し付けるのではなく、子どもたちが自ら学ぶ姿勢を持たせ、家庭、地域、学校が連携して支援していくことが重要です。

学校は最も技術を持った人材と最新の設備を有する教育の場として、専門能力の高い教員が、家庭や地域の人たちの協力を得ながら、子どもたち一人ひとりの能力や特技を伸ばす多様な選択肢を提供する必要があります。

また、「公」から「民」の流れの中で、教育を担う主体も、従来の公立、私立に加え、株式会社やNPO、社会教育団体、退職教員によるボランティア活動などに多様化していきます。

こうした取組みにより、2030年に福井は、学校に対する子どもたちの満足度が全国で最も高い県になります。

- ・ 小学校では、10歳までに自分の将来を考える機会を与えるために、いろいろな仕事があることを学習。その後も、小学校高学年、中学校を通じて働く意義や家族を持つ意義などを学習。こうした活動をNPOや社会教育団体などが支援
- ・ 高校では、飛び級や海外留学、長期インターンシップ、留学生との混成クラスなど多様な選択肢を用意
- ・ 平均点の高さではなく、専門能力の高い教員を採用するとともに、採用後も常に資質の向上を図る

- ・ 子どもたちは一人で遊ぶことが増え、かつては集団での遊びを通じて身につけてきた創造性や社会性、協調性を得る機会が失われつつあります。

福井では、人間形成にとって特に重要な小学校低学年までの時期に、地域社会のつながりの強さを活かして、豊かな自然や集団の中で遊ぶ機会を増やし、「創造性」や「社会性」、「協調性」を育む社会を実現します。

(わが道 自習)

- ・ スピードと変化が激しく、高い労働生産性を求められる時代を生き抜くためには、職業を持ちながらも、仕事のための資格や高い専門性を習得するなど常に「職能」を高めることが必要となります。

社会人になってからも、常に自己の「職能」の向上を図り、真のプロフェッショナルを目指す人を支援するため、整備率が高いブロードバンドを活用するなど学びたい人にはいつでも学べる環境を用意します。

- ・ 「三世代近居」を背景に、個人のスキルアップを家族が支援
- ・ 大学に通いながら専門学校で資格を取得するなど食欲に学ぶ学生が増加
- ・ 大学院のサテライト講座や夜間講座などが充実
- ・ 企業が社会貢献活動の一環として、海外でのボランティア活動に参加しやすいような休職制度の整備や中途採用制度の充実など、企業人材育成のための支援体制が充実

(国際標準の行動力)

- ・ グローバル社会、情報社会が到来し、世界的視野を持って物事を考え、行動することが必要な時代になると、自ら積極的に「外」に出て行く人材を育成する必要があります。

こうした人材を育成するため、福井では、NPOなどの団体が、企業や個人からの寄附を活動資金として、海外留学やインターンシップなどのプログラムを充実していきます。

- ・ 地域や企業が支える芸術・スポーツクラブに優秀な専門家を指導者として招聘するなど、小中学生の頃から潜在能力や技術、可能性などを十分に伸ばし、全国、世界を舞台に活躍する若者を育成する環境を整えます。

- ・ 地域や企業が、地域の芸術・スポーツクラブなどの運営に出資、援助することが一般化
- ・ 指導者として一流の芸術家やプロスポーツ選手を招聘し、小中学生が夢に向かって努力する気持ちを支援する機会が充実

5-2 子育てシステム・ナンバーワン

(子育て支援システム)

- ・ 2030年に、福井人が新しい生活感と豊かさの中で生き生きと暮らし、地域社会や産業の活気に溢れる福井となるためには、人口の減少を所与のものとするのではなく、少子化対策を進め、急激な人口減少を抑える最大限の努力をする必要があります。
- ・ 現時点では、福井の子育てはその多くを女性が担っています。しかし、それが一夫婦当たりの子どもの数を少なくする大きな原因ともなっています。子育てを女性と男性が協力して取り組むなど女性の負担を軽減する「**女性活動支援システム**」(P87)を全国に先駆けて充実していくことが必要です。
さらに、子どもを産み育てることに対する経済的負担を軽減するための、不妊治療や出産、育児にかかる費用を社会全体で負担する「**社会契約的なシステム**」も整備することにより、総合的な「**子育て支援システム**」を構築します。

(子育て世代の誘致)

- ・ 「子育て支援システム」を構築するとともに、子ども一人ひとりの能力や特技を活かす最先端の**教育環境**を用意するなど、魅力ある子育て環境を作り上げることで、全国から子育て世代が福井に集まります。
- ・ こうした「子育て力」を強化する取組みを充実することにより、2030年の福井は、合計特殊出生率や人口当たりの子どもの数が増加し日本一となるなど、子どもがたくさんいる社会を実現します。

5-3 健康長寿 世界一

(長生き健康生活)

- ・ 現在の福井は、30代男性の肥満の割合が高く、男性の喫煙率も日本一高い地域です。こうした状態を改善し、働き盛りの世代の早死を防がなければなりません。

福井の長寿を支える健康的な食生活を取り戻し、各人が適度な運動を日常生活に取り入れるなど生活習慣を大幅に改善する努力を続けることにより、「平均寿命」、「健康寿命」ともに**世界一**となり、自分の天寿をまっとうするまで**健康でいきいきと生活**できる社会を実現していきます。

- ・ 健康であるためには生きがいが必要です。福井では、人生経験豊富な達年が地域の伝統・文化、職人芸などを若い世代に対して伝承するなど、生きがいを持って生活できる社会を実現します。

- ・ 健康な食生活、規則正しい生活、適度な運動習慣、車中心の生活からの脱皮など、健康な体をつくる生活習慣が定着
- ・ かかりつけ医に気軽に相談したり、定期的に健康診断・相談を受けられたりするなど、県内全域で安心して医療を受けられる体制の整備

- ・ 健康や癒しについての関心が今以上に高まる中、福井には、自然やおいしい水、温泉、健康食材、評価の高い医療機関など「健康長寿」を支える資源が豊富に存在します。

こうした資源を活かし、クラスター化することで、自然の癒しと温泉を活用した新しい観光産業の創出やおいしい水と健康食材を使った福井型健康食の東アジア諸国への販売などを実現します。

さらに、こうした取組みを進めることにより、**身も心も癒す**ことができる場所「福井」の名が広く知られ、大都市圏や東アジア諸国から人を呼び込む原動力になっています。

(がんを治すなら福井)

- ・ 福井の基幹病院のがん治療実績は、様々な調査において全国的にも高い評価を得ています。

また、福井には全国に誇れる豊富ながん医療に関するデータ・資源があり、これを活用し、県内の医療機関が協力してがんに関する様々な研究を進めていきます。

この実績を活かし、さらにがんを予防する生活習慣の定着や陽子線がん治療などの先駆的ながん治療システムを確立することにより、2030年には**県内のがんの死亡率を半減**させ、さらに、がん治療の患者を、県外、海外から多数受け入れられる環境を整備します。

- ・ さらに、予防する生活習慣や先駆的ながん治療システムの習得を目的に、世界中から医療関係者や研究者が福井を訪れるようになります。

メディカル・ツーリズム（医療観光）

シンガポールをはじめとするアジア各国では、医療サービス（人間ドックも含む。）と観光をセットにした「メディカル・ツーリズム（医療観光）」に政府を挙げて取り組んでいます。

高度な医療技術や検査技術は、それだけでも十分人を集める魅力を持ちます。

5-4 福井人の文化と誇り

(福縁が培う福井文化)

- ・ 祭、伝統食、伝統技能といった伝統文化は、自分たちの誇りであり、地域を理解し、他地域と交流する上で有効なツールです。しかし、地縁の希薄化などにより、地域の力だけでは維持することが困難になってきています。

福井では、「福縁」により福井の文化を培う仕組みを構築し、伝統文化を継承していきます。

- ・ 「縁ステーション」を拠点に、「文化財トラスト」や「文化ファンド」がつけられ、地域外の賛同する人たちの支援も受けて、古い街並みや伝統芸能等を活性化

- ・ 「縁ステーション」での多世代の交流や「福縁」による支えあいで、福井の文化に対する福井人の理解が深まります。さらに、縁ステーションに集う他地域から来た方の文化ともつながることにより新しい福井文化を創造し、国内外へ発信していきます。
- ・ 福井では、企業の社会貢献活動や「福縁」でつながる趣味のサークルや文化講座などが活発に活動し、ゆとりある時間を持ち高い教養を身に付けた福井人が増えていきます。

(誰もが親しむ芸術文化)

- ・ 文字文化など全国に誇る福井文化について、自治体やNPO、ボランティアなどが連携して拠点の整備や県民への普及啓発、研究活動の継承・発展に取り組んでいきます。
- ・ 芸術家への支援を充実させることなどにより、一流のアーティストや文化人が福井に集い、子どもから大人まで誰もが本物の美術や音楽、俳句などの文化を身近に安く楽しむ社会を実現します。

(誇りを生み出すスポーツ文化)

- ・ 全国的に活躍するプロスポーツチームは、地域の誇りや連帯感を生み出します。2030年には、熱心な民間人の努力により、福井を本拠地とするサッカーやバスケットボールなどのプロスポーツチームが福井人のサポートと他地域との連携によりできあがるとともに、チームを軸とした総合スポーツクラブが創設され、多くの福井人が気軽にスポーツを楽しみ、様々な人と人との交流が生まれます。

2030年には・・・

今日は土曜日。娘の福子と一緒に、同じ小浜市内のお滝ばあさんのところへ盆踊りのお囃子を習いに行きます。

娘は、去年の夏祭りで踊った盆踊りのリズムにはまってどうしても盆踊りマイスターになりたいようです。11時から1時間で受講料は300円。自宅のケーブルテレビの縁ステーションネットで検索したら生徒は隣のおおい町盆踊りグループを入れて5グループ15人です。今日も娘はお滝ばあさんの軽快なリズムで踊りまくるのでしょう。我を忘れて踊るのはとても楽しいものです。実は、終わった後のお滝ばあさん手作りの昼食がおいしくて、それが目当てでもあるようです。

昼からは家族で縁ステーション実技コースの若狭めのう作りです。受講料は2,000円。講師の清じいさんは無口だがめのう作りは市一番。ネットで検索したら今日の生徒は20人。できのためのうは隣に住むおばあちゃんたちへの金婚式のプレゼントにします。

○ふくい いろはかるた

この「ふくい いろはかるた」は、子どもたちに自分たちの住んでいる福井の「しぜん」、「れきし」、「くらし」、「じまん」などを知ってもらいたいと考え作ってみました。

大人が子どもの気持ちになって作ったものですが、少しむずかしくなっていました。かるたは、自由にことばを使え、いろんないい方ができますから、子どもたちが自分で考えて作ってみると、またちがったものができると思います。

今から25年がすぎると、かるたに使うことばもかなり変わるはずです。2030年の「ふくい いろはかるた」はどんななかみになるのでしょうか。

い	いっぴつけいじょう 一筆啓上 短い手紙	み	井戸がおおもと 福井の名前
ろ	ろくろをまわして えちぜんやき 越前焼	の	のんびりあわら 芦原の 温泉あついよ
は	はくさん 白山 秋には白くなる	お	お米のファミリー コシヒカリ
に	西、エーゲ海 東、コロラドと 同じいど 緯度	く	くずりゅう 九頭竜めざす あちこちの川
ほ	ほこりと自信の 83万人	や	やさしい母さん いちかた お市の方
へ	へその「日本まんなか」福井	ま	まつおばしやう つるが めいく 松尾芭蕉 敦賀で名句
と	どうげん 道元 開いた えいへいじ 永平寺	け	健康 家族で作って食べる
ち	ちかまつ じょうりり 近松 浄瑠璃 こころをえがく 描く	ふ	ふじの ろじん おんし 藤野先生 魯迅の恩師
り	りんりん すいせん 輪々水仙 りんと咲く	こ	小次郎できた つばめがえし
ぬ	ぬ 塗りを重ねて ウルシのしつき 漆器	え	英語で 茶の本 おかくらてんしん 岡倉天心
る	ルビーのような ミディマト	て	電気を支える 原子力
を	おぼま うら 小浜の浦に 初めて象来る	あ	あすわ みかた ばいりん 足羽の桜 三方の梅林
わ	和紙すく技術 千年つづく	さ	さない うんびん ゆめ 左内 雲浜 夢に死す
か	さぎつちよ 勝山左義長 大野朝市	き	だんがい とうじんぼう 切り立つ断崖 東尋坊
よ	そくい けいたい よくぞ即位の 継体天皇	ゆ	雪を楽しみ 冬に勝つ
た	きりづま たんぼにうつる 切妻農家	め	せんい ゆしゆつ メガネと繊維 世界に輸出
れ	しゆんがくこう 歴史ひらいた 春嶽公	み	みけつ 御食の国は ごちそういっぱい
そ	さば すし 空とぶ鯖寿司 列車のかに 蟹めし	し	社長の数は どこより多い
つ	つるつるからいぞ おろしそば	ゑ	えちぜん わかき 越前・若狭 いちの国
ね	きようりゆう 眠れる恐竜 骨や卵で	ひ	ひのさん しまぶ 日野山ながめて 式部と父さん
な	ちようせん ゆり きみまさ なんでも挑戦 由利公正	も	文字のものしり 白川博士
ら	ラッキョウすっぱい 花はむらさき	せ	せかい にほんかい 世界につながれ 日本海
む	あさくら いせき 昔のおもかげ 朝倉遺跡	す	すぎた げんぱく いがく 杉田玄白 医学のはじめ
う	たちばな あけみ 歌よむ達人 橘 曙寛		

【コラム集 - 2030年の福井人の姿 - 】

子どもの姿

敦賀市の河野海男くん（9歳）は、現在、小学3年生です。

学校まで10分間の道のりには、いつも近所の人が笑顔で手を振ってくれています。

今日の1時間目は社会です。今日の先生は、近所のスーパーマーケットのおじさんでした。緊張していて、いつもと違う様子だけど、日ごろの苦勞を面白く話してくれました。スーパーマーケットでは、売り場でレジを打っているお姉さんだけでなく、調理場などいつもは見えないところにたくさんの方が働いていることがわかりました。でも、一番興味を持ったのは、仕入れの量の決め方と値段のつけ方でした。

となりの教室では、70歳代男性を対象にした編物教室をやっています。休み時間にのぞいてみると、なんと先生は、海男くんのお母さんでした。「教えるの、なかなかうまいじゃん...。」海男君は感心しました。

放課後になりました。海男君は地区の大手企業がスポンサーの野球クラブに入っています。野球チームの練習場所は、隣の小学校のグラウンドです。ここでは、4つの小学校から集まっています。1時間ほど練習していると、中学生のお兄さんたちも集まってきました。さすがに、体も大きくて、ボールも速いです。でも、肘の使い方など、ピッチングの基本を優しく教えてくれたりします。

若者の姿

鯖江市の松岡志郎さん(23歳)は、昨年、法科大学を卒業して、現在、ドラッグストアでフリーターをしています。

ドラッグストアでは、レジや商品の陳列が主な仕事ですが、半年くらい仕事をしたあたりから、売れ筋商品が読めるようになり、店長から仕入れについてアドバイスを求められるようになりました。

フリーターとはいえ、現在では、その能力を評価して、採用試験に加点されます。この店の店長は、松岡さんを高く評価しています。松岡さんも、こういう仕事が向いているのかなと思い始めています。

実は、松岡さんはプロ歌手志望でした。20歳のときに作った曲が、アマチュアコンテストの全国大会でグランプリを獲ったことから、夢を追い続けているのです。

アルバイトの時間が終われば、福井市の駅西などで、路上ライブを開いています。結構、大勢のひとが聞きに来てくれますが、グランプリ曲なみの作品がなかなか作れないことから、最近、プロ歌手になる夢をあきらめて、趣味として歌い続けるだけでいいか...と思いかけています。

松岡さんの進む道も、ようやく決まりそうです。

女性の姿

越前市の今立紙子さん(34歳)は9年前に結婚し、現在、夫(36歳)と8歳の長女、5歳の長男、2歳半の次女の5人暮らしです。

広告会社に勤める紙子さんは、次女を出産後1年間の育児休業を取得した後、さらに1年間在宅勤務制を活用しています。子どもの面倒を見ながら勤務できるこの制度のおかげで、今回もうまく勤め先に復帰できたと思っています。

現在は、小学校教員の夫が1年間育児休業して、子どもたちを育てています。

彼は、毎日、子どもたちと近くの山や川に出かけて遊んでいます。さまざまな人とできるだけ多く触れ合う機会を作り、また、できるだけ多くのものを見せたいと思っているので、子どもたちと一緒にいるときは、なるべく自家用車を使わないようにしています。

夕方、紙子さんが帰宅すると、真っ黒な顔をした3人の子どもたちと、夫の手作りの豚汁と里芋コロッケが出迎えてくれました。夫が、昼に娘と出かけた日野川の河川敷公園で知り合ったお父さんのおすすめレシピだそうです。

ビジネスマンの姿

あわら市の金原大和さん(32歳)は、現在、中国上海市にある電子機器メーカーの東アジア総括支部で働くエンジニアです。

福井本社に入社したばかりのときにびっくりしたのは、中国やロシア出身の研究者が多いこと、彼らの意識が高かったことを今でも鮮明に覚えています。

金原さんも負けずに、入社2年目から大学院の夜間部で東アジア経済を専攻しました。さらに、2年前には3か月間休職し、中国語会話の専門学校に通いました。

その甲斐あって、金原さんは、東アジア総括支部への転勤が決まりました。

今日は、開発チーム員のミーティングがあります。金原さんは、中国人、ロシア人、インド人研究者などからなる「多国籍チーム」のチーフに指名されました。彼らのテーマへのアプローチはそれぞれユニークで、あまりの違いに、当初は戸惑いましたが、努力の甲斐あって、メンバーからの信頼を獲得しています。

明日は久しぶりに福井本社に出張です。飛行場についた時間で、小松経由で行くか、関空経由で行くか決めたいと考えています。

高齢者の姿

福井市の美山森子さん(78歳)は、夫(75歳)と2人暮らしです。夫の退職を機に、福井駅西口のマンションに引っ越してきました。

転居の際に自家用車は手放してしまいましたが、駅西では、食品や衣類、日用品などの店や飲食店など、ひと通りそろっているの、歩ける範囲で事足りてしまいます。病気になっても、マンションのすぐ近くに病院があるので安心です。

駅周辺は、歩くことを中心に整備されているので、段差などもなく安心して歩き回ることが出来ます。城址公園から郷土歴史博物館、養浩館へと続く小道は、緑も多く、宮崎さん夫婦お気に入りの散歩コースです。何度も通っているうちに、ずいぶん福井の歴史に詳しくなりました。今では、近くの縁ステーションで、小学生を相手に、週1回福井の歴史のお話し会を開いています。